

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和5年5月25日 VOL.178

藤枝市介護支援研究会が総会を開催

令和5年5月19日（金）介護支援専門員（以下、ケアマネ）で構成される藤枝市介護支援研究会（以下「ケア研」会長：福原正規氏）の総会が開催されました。総会では令和4年度の事業報告として、4回のリモート研修に延412人の参加したことが報告されました。今年度は、169人の会員でスタートし、多職種連携や相談技術援助等、年間5回の研修の開催が予定され、ケアマネ同士の交流による意見交換と更なるケアマネの質の向上を目指します。市では、ケア研の活動をこれからも支援していきます。

「適切なケアマネジメント手法」の研修

総会終了後の研修会（市地域包括ケア推進課:共催）には、**国際医療福祉大学大学院 石山麗子教授**（リモート参加）に講師を依頼し、122人のケアマネが参加しました。石山教授は、厚生労働省老健局振興課 介護支援専門官として平成30年度介護保険制度改正に携われ、「適切なケアマネジメント手法」の第一人者であり、この手法が作られた経緯からその理念・実際の活用方法について丁寧な講義を受けました。（※この手法を作り上げるためのモデル事業に静岡県が協力していました。）

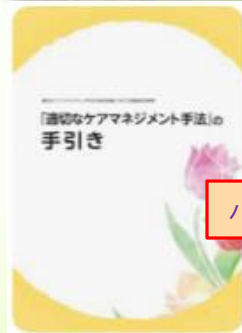
講義では、令和6年度に改正される介護保険制度に関する意見概要に「ケアマネジメントの質の向上」が位置付けられ、この手法の更なる普及と定着が示されていることを学び、ケアマネに期待されていることを再確認する機会となりました。



講師：石山麗子教授

ケアマネの感想

- ◆適切なケアマネジメント手法は基本ケアと疾患別ケアに構成され、**基本ケアは、全ての高齢者に対して行うもの**で、**ケアマネとして必ず覚えておくべきもの**だと分かった。
- ◆適切なマネジメント手法は、多職種・市担当者との共有や知識を補うことができるため、**チームケアには欠かせないもの**だと分かった。
- ◆特に意思決定の支援では、意思が定まっていない利用者の思いを**ケアマネと一緒に意思（思い）を形成していくこと**が大切でそれが、**適切なプランにつながる**ことが分かった。
- ◆利用者の意思決定を形成するために、**利用者のこれまでの生活の状況や人生を知ることが大切**だと改めて感じた。
- ◆**家族への支援**では、家族を介護者として捉えるのではなく、利用者として生活している生活者として捉えることが必要だと思った。
- ◆基本ケアをしっかりと行い、疾患別支援を行っていきたいと思った。



バックNoの検索は

